

社会安全・警察学第5号発刊に当たって

田村正博

社会安全・警察学研究所 所長
京都産業大学法学部 教授

当研究所は、2013年の発足以来、「警察学」の名を冠した日本で初の研究所として、「社会安全への取り組みと犯罪防止の核となる警察のあり方についての学問的研究」を基に、「社会安全の担い手の方々の協働の促進」という実践的な課題に取り組んできました。京都府警察本部、京都市教育委員会をはじめとする多くの関係機関、多くの関係者の方々にご協力をいただいたことに、厚く御礼申し上げます。

2015年11月からは、当研究所のメンバーが中心となった研究プロジェクト「親密圏内事案への警察の介入過程の見える化による多機関連携の推進」(研究代表者・田村正博)をはじめました。このプロジェクトは、科学技術振興機構(JST)の社会技術研究開発センター(RISTEX)が同年から開始した「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築」研究開発領域のプロジェクトの一つで、「家庭や学校内の犯罪的事象に対して、警察がどのような場合に、どのような要素を考慮して、刑事事件としての介入を行うのかを解明する。関係機関の側が持つ、警察の介入に対する知識や問題点の認識、あるいは期待を、警察の介入判断基準と照らし合わせ、関係機関側が警察の介入の内容や意図を理解・予測できるツールを開発し、警察を含めた多機関連携が円滑に進むことを目指す。規範的検討を合わせて行い、市民が警察の介入の在り方に関して幅広く論議するための素材を提供する」ことを目指すものです。警察に関する学問的な研究を基に、多くの方々の協働を推進し、さらに市民がその問題を語り合うための素材を提供する、というまさに当研究所の使命を果たすものだといえます。

本プロジェクトには、本学内及び他大学の研究者の方々、そして関係する機関の実務家出身者の方々の参加をいただき、また、多くの関係機関の方々のご協力をいただきました。本プロジェクトを通じ、訪問調査やインタビュー調査をはじめ、DV事案に係る仮想事例調査、外国調査、さらには同じ領域内の他のプロジェクトの方々との研究交流等、研究所及びそのメンバーにとって極めて充実したものとなりました。RISTEXの領域の関係者の方々をはじめ、ご支援、ご協力をいただいた多くの皆様に感謝を申し上げます。

プロジェクトの一環として、当研究所と警察大学校警察政策研究センターとの共催で、2018年2月に、シンポジウム「児童虐待事案への刑事的介入における多機関連携」を開催いたしました。国家公安委員会委員や警察庁の幹部職員を含めた100人近い警察関係者と、現場の児童相談所長などほぼ同数の福祉機関関係者とが、一堂に会したことは、それ自体で相互理解の推進に大きな意義があったものと考えております。

本号は、前号に引き続き、RISTEX研究プロジェクト特集号として、上記シンポジウムの記録とともに、関係する論文、研究報告等を掲載いたしております。多くの方々のご参考となることを願っております。

プロジェクトの期間は、2019年3月までと残りわずかになりましたが、2019年2月4日に、「児童虐待における警察と福祉の対話を目指して」と題するシンポジウム・ワークショップを開催するのをはじめ、これまでの研究開発の成果物として、主として児童相談所向けの資料『児童福祉に携わるひとのための「警察が分かる」ハンドブック』（「警察と刑事手続の基礎知識」、「Q&A」、「被害者学からの知見」及び「用語集（警察の組織と行動が分かる110語）」を収録）とリーフレットを作成配布し、並びに当研究所のウェブサイトに掲示することを予定しております。

皆様には、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

（2018年12月記）